

## 型枠の技術がすごい

### 聖橋

ところで聖橋のデザインは、ドイツやルクセンブルグなどヨーロッパではよく見かける形式だが、当時としては斬新な構造だったのだろう。現在の姿は関東大震災の復興の一環で建設された。設計者は復興庁の成瀬勝武と山田守(京都タワーのモノコック鋼板製の設計で有名)である。残念ながら施工者は不詳。昭和2年の竣工で、日本土木学会の土木遺産になっている。



(ちなみに、京都タワーは建設当初は京の都の玄関先に何という見苦しいものをと、かまびすしい時もあったが、今では京都を代表するシンボルになっている。パリのエッフェル塔もできたときは散々の悪評で、ビクトル・ユゴーが毒づいたので有名。)

橋梁本体も美しいが、ここで取り上げたいのはその側道である。歩道のアーチがなんとも見事なのだ。普段何気なく通っていると見過ごしてしまうのだが、アーチの曲面が入口と出口で違う。

しかも途中には何の違和感もなく前後が繋がっている。どうしてこんな見事な仕事ができただろうか。型枠大工の腕に、ほとほと感服する。写真をご覧くださいと一目瞭然。しかも型枠の継ぎ目が直線につながっている。捻じった様子もないので巧妙さに頭を傾げてしまう。

